

Xバンドレーダによる定量的降雨量推定の歴史 A review on X-band radar for quantitative precipitation estimate

真木 雅之^{1*}
Masayuki Maki^{1*}

¹ 鹿児島大学
¹Kagoshima University

Xバンド波長のレーダについて第二次世界大戦後から現在までの発展を述べた。Xバンド波長は減衰のために降雨観測には不向きと言われていたが偏波技術の実用化よりその評価は180°変わった。設置の容易さや高い時空間分解能の情報を提供することからギャップを埋めるレーダとしてあるいは都市域を対象としたレーダネットワークとして重要な位置を占め始めている。情報のより有効な活用を目指して、多分野間の連携のもとで社会実験が進められており、従来の全国規模のレーダネットワークの得られない気象情報の提供が可能となってきている。

キーワード: Xバンドレーダ, 偏波レーダ, 定量的降雨量推定, X-NET, XRAIN
Keywords: X-band radar, polarimetric radar, QPE, X-NET, XRAIN